

## 第10回名大郷土研究会 OB 会総会イベント

～ 家康ゆかりの場所を訪ねて！大樹寺から岡崎城へ ～

案内人 柴田

- 1 日 時 2018年6月9日(土) 13:00～16:00
- 2 場 所 大樹寺、西光寺、井田城址、伊賀八幡宮、松応寺、岡崎城
- 3 踏査コース(約7km)
  - ① 愛知環状鉄道 大門駅スタート 13:00 (改札口 12:45 集合)  
JR岡崎駅下車、愛知環状鉄道(岡崎駅)乗り換え高蔵寺行き大門駅下車  
名鉄岡崎公園前駅下車、愛知環状鉄道(中岡崎駅)乗り換え高蔵寺行き大門駅下車  
愛環鉄道停車駅:岡崎(JR岡崎)→六名→中岡崎(名鉄岡崎公園前)→北岡崎→大門
  - ② 大門改札口から大樹寺へ 13:18 (駅から18分) 約25分  
大樹寺は、松平家・徳川将軍家の菩提寺(氏寺)で1475年4代親忠により勢譽愚底上人が開山した。松平8代の墓や歴代将軍の等身大の位牌、家康73歳時の木像、祖洞和尚のカンヌキ「貫木神」、国の重要文化財である冷泉為恭(レゼ<sup>レ</sup>タ<sup>タ</sup>カ)のふす間絵などが安置されている。1535年7代清康が建立した多宝塔は1層が方形、2層が円形となっている。3代将軍家光が造営した総門と山門、鐘楼は県の重要文化財に指定されている。境内からは山門、総門を通して岡崎城が見えるよう配置されており、その眺望は**ビスタライン**と呼ばれ守られている(本堂拝観は有料)。
  - ③ 西光寺(大衆塚と千人塚)へ 13:55 (大樹寺から12分) 約10分  
西光寺は、4代親忠の開基、大樹寺勢譽愚底上人の開山である。大衆塚は、桶狭間の合戦で今川軍が織田軍に敗れた際、家康は大高城から大樹寺に逃げのびたが、大樹寺は織田方の追手に包囲された。この時、大樹寺の僧たちは家康と岡崎家臣団を助けるため、勇猛果敢に戦い織田勢を撃退した。倒れた多くの僧を祀るため、家康の手でその年の内に建立されたと言われている。千人塚は、1467年4代親忠と寺部・伊保・八草・拳母・上野の土豪の軍との戦い(井田野合戦)で、戦いに勝った親忠が戦死者を敵味方関係なく葬ったものと言われている。
  - ④ 井田城址へ 14:10 (西光寺から5分) 約5分  
井田城は、築城年は定かではない。岡崎城の支城として築かれた酒井左与右衛門家の城とされる。「井田野古戦場」は西光寺辺りと言われ。現在は城山公園、神社、集会所となり、小高い城山には**井田城址碑**が立つ。
  - ⑤ 伊賀八幡宮へ 14:25 (井田城址から10分) 約15分  
伊賀八幡宮は、4代親忠が1470年に**氏神**として武運長久、子孫繁栄を

祈願するため杜を三重県の伊賀より移したことに始まる。家康も大きな合戦の時には必ず参拝したと言われ、大樹寺とともに江戸時代にわたり将軍家の厚い崇拜を受けた。家康造営の本殿に、家光が弊殿・拝殿を増築、権現造となし、併せて、随神門・神橋など境内整備をしており、そのほとんどが昭和8年に国宝に指定され、国の重要文化財となっている。神仏習合の時代の名残りの蓮池は、「**厭離穢土欣求浄土**」を象徴し、夏になると大輪の花に彩られる。

⑥ 松応寺へ 14:58 (伊賀八幡宮から18分) 約10分

1549年3月、岡崎城主8代広忠は城中で家臣に刺殺され、亡骸は能見ヶ原の月光庵に埋葬された。同年11月、家康は今川方の人質として熱田から駿府へ赴く途中、月光庵に参り、その墓上に小松を植え、松平一族の繁栄を祈願した。1560年家康は桶狭間の合戦後、岡崎城主となり、非業の死を遂げた父の菩提のため月光庵の地に寺を建立した。家康は、手植えの松が縁深く伸長したことから、人質の身であった自分が城主として再び三河の地に帰れたことを喜び、「**我が祈念に応ずる松なり**」として寺号を**松応寺**と名付けた。

⑦ 岡崎公園へ 15:20 (松応寺から12分) 約25分

岡崎公園が史跡となっており、**三河武士のやかた家康館、岡崎城天守閣、龍城(ツツ)神社、しかみ像、産湯の井戸**など家康と三河武士の歴史にふれることができる施設や祈念碑がある(やかた家康館と天守閣は有料でセットで510円)。

**岡崎城**は1455年、三河の守護代西郷弾正左衛門稠頼(ツツヨリ)が城を築き、その後4代城主西郷信貞のとき、松平7代清康に威嚇され、1524年城を譲り松平氏の居城となる。1526年8代広忠が城主となり、1542年12月26日、家康が城内で呱呱の声をあげた。この日が寅年、寅の日、寅の刻とあって寅童子の別名があり、男子出生を祈願した鳳来寺山の薬師12神将のうち寅年に当る一つの像が消えたと言われる。また、この日の朝、城の上に金鱗の竜が現れ祝福したといい伝えられ、父広忠をはじめ三河武士の喜びは大きかったが、家康の前途には厳しく大きな試練が待ち構えていた。8歳の年の3月、父広忠が不慮の死を遂げた。11月家康は再び今川方の人質となった。このため岡崎城は今川氏の勢力下におかれ、主なき城として岡崎衆の忍従と苦慮の歳月が続いた。しかし、19歳の桶狭間合戦で今川義元の戦死により自由の身となり、実に12年ぶり岡崎城に帰り、1570年浜松城に移るまでこの城を根拠地として三河統一、ひいては天下統一への拠点とした。以来、徳川幕府発祥の地、神君出生の城、あるいは東海道の要衝として代々譜代の臣が城主となり、知行はわずか5万石であったが、

幕府の要職についた。1873年から7年にわたって城郭は取り壊しとなり、石垣と堀の一部を残すのみとなったが、1959年3月30日三層五重の天守閣と井戸櫓、附櫓が86年ぶりに復元された。

⑧ 名鉄岡崎公園前駅へ 16:00 (岡崎公園から15分)

16:14 岡崎公園前駅 普通電車乗車

16:24 新安城駅下車、急行電車乗車

16:31 知立駅下車、快速特急電車乗車

16:58 名鉄名古屋駅着